

海外市場を拓く

当社が業界に先駆けて海外市場の開拓を始めたのは、昭和三十七年（一九六二）ごろからであった。

このころ、東南アジアはアメリカ車が圧倒的に多く、部品もアメリカから供給されていた。これに目をつけ、商標を英語読みにかえた「チエリー・ガセット」のブランドで輸出にふみきった。

昭和二十六年（一九五一）に特需を経験しているし、このころの日本は、まだまだアメリカ車が幅をきかせていたので、当社はそれらのガセット、パッキングを製造する金型がそろっていた。

当社の代理店の二社が輸出部門をもっていたので、そこを窓口にしぼるといふ条件で展開した。結果は

チエリー・ブランドは品質が良く価格も安いと評判が良く、予想以上の成績をあげた。これによって自信を強め

“アメリカ車のあるところには輸出市場”と考えて、東南アジアのほかに、中近東、中南米へと輸出先を

拡大してチエリー・ブランドの浸透を図った。こうした努力が認められ、昭和三十九年（一九六四）六月と

四十二年（一九六七）六月の二度にわたって通産大臣から『輸出貢献企業認定証』をうけた。

この制度は輸出振興の一環として、毎年六月二十八日の貿易記念日に、①輸出金額 ②輸出比率 ③輸出伸長率

④輸出経験年数 の総合点に合格した企業を認定するもので、これを受けた企業は、“肩身が広く、名誉”なことであった。とくに三十九年の第一回に当社が認定されたので、非常に喜びが大きかった。